

【全体】

- 国際的な流れをきちんと見据えた検討が大事。ここ近年は流れがすごく速いという点を重々踏まえていただきたい。
- 我々を取り巻く環境というのは温暖化、気候変動だけではなく、大気もあり、水もあり、土壌もある。各分野の施策を進めることによってゼロエミッションにも資するというような政策を考えることが重要。
- 相互に関連し合っていることに配慮することがますます重要。それぞれの目標の達成を考える場合、個々の目標だけではなくて互いに関係する部分を十分考慮した上でやっていく必要がある。
（CO₂削減とNO_x、水・緑と自然起源のVOCなど）
- 持続可能な社会の実現に向け、多面的かつSDGsの概念も含んだリカバリーとなるよう、経済と環境の好循環の視点を忘れずに、議論いただきたい。
- C40等々の流れを見ていると、大きく出ているのは、コロナからのリカバリー、どうやって共存していくか。さらにコロナ禍からのリカバリーによってその都市のレジリエンスやグリーンなどをどう進めていくか。
- 東京都の戦略を立てるためにも区市町村との連携が非常に重要。
- 国との連携でここがもっとこうなるとよい、といったことが具体的にあれば教えていただきたい。

【ゼロエミッション東京の実現】

- 温室効果ガスの排出量のデータを見ると、大きな課題になっているのは家庭部門。
- 東京都の実情から見て、集合住宅や既存住宅がとても多いことに対しても更なる施策があった方が、もう少し早い時点での低減につながるのではないかと考える。
- 再エネについて、高いため経営を圧迫するという意見があったが、ぜひ東京都でそれを打破するような施策ができればよいと考える。
- 都市のレジリエンスという観点で、エネルギーの面から言うと、地産地消というところで省エネだけでなく都市、建物、地域の自立性というところにも寄与できる。
- 脱炭素社会に向けては、エネルギーの有効利用やより低炭素なエネルギーの供給など脱炭素化に向けた多様な取組が必要。
- 気候変動は地球規模での課題。都内に所在する企業も事業所を国内外で展開し、サプライチェーン全体で低炭素・脱炭素化を実現するため様々な取組を行っている。
- 新たな財源として、炭素税のようなものを東京都として考えていることはあるか。
- ファイナンスの面でグリーンファイナンスを目指すということと、東京自体がグリーンになっていくということの関連性がもう少し強く出るとさらに興味深い。
- 若い世代の方々の意識を変えていくことによって、脱炭素に向けたムーブメントにもつなげていくことができるのではないかと考える。

【自然】

- 今年はCOP15もあり、気候変動だけではなくて生物多様性にとっても重要な年。
- SDGsのウエディングケーキの基盤となっているのは、生態系、生物多様性。ネイチャーベースソリューションズ。その観点から、サステナブル・リカバリーやゼロエミッション東京の実現に向けて、環境基本計画全体の中での位置づけをより明確にすることは重要。
- 現行計画の政策3「自然豊かで多様な生き物と共生できる都市環境の継承」については、全体の目標がやや抽象的な印象。

【大気、水・熱環境、土壌・化学物質など】

- 環境情報のオープンデータ化を大いに進めていただくのは賛成。このようなデータを用いた環境教育、データ教育への活用も併せて検討いただけると、都民の環境リテラシーとして、教育上非常によい。
- オープンデータ化については、いろいろな波及効果があると思うので、そういったことを考えて展開していただきたい。